

施策マネジメントシート

基本施策名	2-2 市街地整備の推進(国立駅周辺地域・富士見台地域整備)	施策統括課	国立駅周辺整備課	氏名	内山 猛
政策名	7-1 都市基盤	主な関係課	まちの振興課、工事担当、富士見台地域まちづくり担当、生涯学習課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ・市民 ・市内全域
--

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	人口	人
イ	市域面積	km ²
ウ		
エ		

施策の目的 それぞれの地域の特性に合った都市機能の整備が行われ、利便性や快適性、防災面からみた安全性を兼ね備えた良好な市街地を形成します。
--

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

	名称(展開方向ごとに記載)	単位
1	ア 国立駅周辺まちづくり事業の進捗率	%
	イ 旧国立駅舎及びその周辺で活動に参加した人数	人
2	ア 富士見台地域の居住人口	人
	イ	
3	ア	
	イ	
4	ア	
	イ	

2 第1次基本計画期間(平成28~令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1	回遊性のある国立駅周辺地域のまちづくり 文化財である旧国立駅舎を中心とする国立駅周辺地域を、回遊性のある空間とすることにより、国立市の魅力を高めます。	国立駅北口、南口の駅前広場整備、国立駅周辺の道路整備等を進めることにより、だれもが歩いて街を楽しめる回遊性のある空間を創出します。 市民に必要な機能を有する公共施設整備を進め、それらを中心に「市民が集い、来訪者を迎え、にぎわいと交流のある」空間を創出します。 文化財である旧国立駅舎を再築し、国立大学町のまちづくりの歴史を今に伝え、市への愛着を醸成するとともに、国立駅周辺の景観構造を回復し、「まちづくりの駅」として、まちの回遊性を高める役割を担う拠点として整備します。
2	だれもが住みやすい富士見台地域のまちづくり 富士見台地域を、少子高齢社会に対応した、だれもが住みやすい理想的な住空間とし、老いても若くても安心して暮らせる地域とすることにより、国立市の魅力を高めます。	地域住民、UR都市機構、東京都と協働して、まちづくりの方向性を示した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン」を実現するため、協議します。 富士見台地域における、公共施設の再配置の検討を行います。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	H27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	目標達成度			
対象指標	ア	人	見込み値 実績値	74,558 74,558	74,541 75,054	74,511 75,466	74,459 75,932	74,415	74,440	74,293	74,145	73,965	目標達成度			
	イ	km	見込み値 実績値	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	達成・ 未達成	前年度 比較		
	ウ		見込み値 実績値													
	エ		見込み値 実績値													
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値 目標値 実績値	38.9 39.7 39.7	51.3 50.8 50.8	55.3 54.3 54.3	66.1 64.1 64.1	68.2 67.4 67.4	74.8 69.5 69.5	85.4 73.4 73.4	87.2 76.4 76.4			89.8 80.6 80.6	達成
		基本計画における指標の説明又は出典元		「国立駅周辺まちづくり基本計画」でまとめた事業の事業費ベースの進捗率を基に設定しました。												
		イ	人	成り行き値 目標値 実績値	0 0 0	0 0 0	0 300 373	0 500 361	0 750	0 1,000	0 30,000	0 60,000	0 100,000	0	未達成	維持
	基本計画における指標の説明又は出典元		検討等に参加する人数、国立駅の乗降客数を考慮して設定しました。													
	展開方向2	ア	人	成り行き値 目標値 実績値	17,184 17,184 17,184	16,983 17,200 17,427	16,781 17,200 17,730	16,565 17,200 17,742	16,332 17,200 17,537	16,093	15,854	15,616	15,359	達成	維持	
		基本計画における指標の説明又は出典元		本基本計画策定時に行った、地区別の人口推計では、平成31年、平成35年とも人口が減少すると推計されていることから、これを食い止め、現在の人口を維持していくことを目標としました。												
		イ		成り行き値 目標値 実績値												
	基本計画における指標の説明又は出典元															
	展開方向3	ア		成り行き値 目標値 実績値												
		基本計画における指標の説明又は出典元														
		イ		成り行き値 目標値 実績値												
	基本計画における指標の説明又は出典元															
展開方向4	ア		成り行き値 目標値 実績値													
	基本計画における指標の説明又は出典元															
	イ		成り行き値 目標値 実績値													
基本計画における指標の説明又は出典元																
事務事業数		本数		5	5	6										
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	220,715		326,700									
		都道府県支出金	千円	368,849	46,190	257,250										
		地方債	千円	102,800												
		その他	千円	481,620	19,650	121,037										
		一般財源	千円	43,050	26,149											
		事業費計(A)	千円	0	1,217,034	91,989	704,987	0	0	0	0	0	0			
	人件費	延べ業務時間	時間		12,730	14,700	18,900									
	人件費計(B)	千円		63,650	73,500	94,500										
	トータルコスト(A)+(B)	千円		0	1,280,684	165,489	799,487	0	0	0	0	0				

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

背景として考えられること

【展開方向1】

前年度と同様、個別事業の整備計画内容の整理が進み、具体的に事業の工程を考慮することができる状況となった。一方で、状況の変化により、さらなる協議検討が必要な事業も生じ、一部の事業の進捗が遅くなっている。

【展開方向2】

富士見台地域の人口は、地区によっては微減があるものの、世帯数は横ばいである。近年、大規模マンションへの入居や集合住宅の建設が見られること、さらには都営矢川北アパートの建替え後の戻り入居も進んでおり、総体として大きな変動がなかったと考えられる。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

【国立駅周辺地域】
 ・平成25(2013)年度にJR中央線連続立体交差事業が完了し、国立駅周辺整備事業の着手が可能となった。
 ・平成27(2015)年4月に、国に都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金対象事業として旧国立駅舎再築事業等3事業が採択された。
 ・国立駅周辺の道路整備事業に関しては、東京都の市町村土木費補助の支援を受けて行うこととなった。
 ・国立駅周辺の交通計画は、交通管理者と段階を分けて協議を行い、平成27(2015)年4月に北口駅前広場、北1号線、西1号線、西1条線(延伸部含む)の、平成28(2016)年1月に南口駅前広場、東1号線の協議を終了している。
 【富士見台地域】
 ・1965(昭和40)年に完成した国立富士見台団地は、創設から50年が経過し、日本各地にある多くの団地と同様に、高齢化率の上昇、空室率の上昇等の課題が生じている。
 ・東京都により、矢川駅の近くにある都営矢川北アパートの建て替え事業が進んでいる。居住者の高齢化率は高く、建て替え後の団地で安心して暮らすことができる環境の整備をどのようにするのが問われている。
 ・都営矢川北アパートの建て替えに伴い生じる空地を東京都から借り受け、保育園及び、児童館等を含む、多世代が利用できる複合施設を整備するために、東京都との協議が進められてきた。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

【国立駅周辺地域】
 ・国立駅周辺整備事業に関しては、各事業に対し、様々な意見がある。
 【富士見台地域】
 ・国立富士見台団地の住民、UR都市機構、それぞれが考える今後の団地のあり方には違いがある。
 ・建替が行われても、都営矢川北アパートの住民が安心して暮らせるよう、求める声がある。
 ・複合施設については、日常的に子どもから高齢者まで多世代が過ごせる居場所づくりの観点から、市民より様々な意見が寄せられている。

6 H30年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の取組状況

H30年度の取組状況	R1年度の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> 国立駅北口駅前広場整備工事を完了させた。 国立駅周辺道路整備工事のための実施設計を実施した。 都市計画道路3・4・10号線(南工区)の電線共同溝工事を行った。 旧国立駅舎再築工事に着手した。再築後の旧国立駅舎の活用方針に基づき、空間デザイン、管理運営方法の検討を行った。 国立駅前にたち・こくぶんじ市民プラザを開設した。 南口複合公共施設を含めた国立駅南口駅前整備の方向性をまとめるため、隣接地権者と協議、検討を行った。 「富士見台地域まちづくりビジョン」に基づき、富士見台地域の重点まちづくり構想の策定に向けて着手した。 重点まちづくり構想の作成に向けて、市民協働の取組を実施したほか、地域資源の専門的な分析のため、東京大学との共同研究を実施した。 「矢川公共用地(都有地)活用計画」に基づき、施設整備の基本計画の策定に着手した。市民意見を収集し「(仮)矢川プラス兼矢川複合公共施設の基本計画 中間報告書」をまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 北1号線の電線共同溝工事を行う。 都市計画道路3・4・10号線(南工区)の実施設計を行う。 旧国立駅舎再築工事を完了させる。また、再築後の旧国立駅舎の利活用に向けて、活用方針に基づき、空間デザイン、管理運営方法・体制などを決定し、開設準備を進めていく。 隣接地権者と協議、検討を行い、南口複合公共施設を含めた国立駅南口駅前整備の方向性をまとめる。 「富士見台地域重点まちづくり構想」の策定に向けて、住民主体の協議会を立ち上げると共に、庁内検討、大学機関との共同研究の深度を深め、構想の素案をまとめていく。 (仮)矢川プラス及び複合公共施設に関する基本計画を策定し、その後、基本設計、実施設計と進めていく。

(2) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 必要に応じて展開方向ごとに記載

総合基本計画及びH30年度行政経営方針に照らして評価する

国立駅周辺地域においては、国立駅前にたち・こくぶんじ市民プラザの開設や旧国立駅舎再築工事の着手など、市民の利便性を向上させ、駅周辺の回遊性を高めるとともに賑わいを創出するために必要な機能を備えた公共施設を整備するために、各施設ごとの計画に沿った事務を進めた。ただし、隣接地権者による開発事業との関係を問い直す必要が生じ、さらに検討を行う必要となる事業もあった。また、人も車も自転車も行き交いやすくするために駅前広場や周辺道路の整備を進め、当該事業である国立駅北口駅前広場工事が完了した。
 富士見台地域においては、令和2(2020)年度までの3か年計画で「富士見台地域重点まちづくり構想」を策定するため、市民、行政、専門家の3つの視点から地域課題と地域資源を整理し、構想の基礎となるフレーム作りを行った。また、矢川公共用地の活用に向けて、東京都とも協議しながら、施設整備の基本計画に着手し、中間報告書をまとめた。概ね計画通り進捗している。

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) R2年度の取組方針

計画に則って国立駅周辺道路の整備工事を進める。
 旧国立駅舎の開設に伴い、まちの魅力発信拠点として活用する。
 富士見台地域の重点まちづくり構想案をまとめる。
 (仮)矢川プラス兼矢川複合公共施設の基本計画に基づき、実施設計を進める。

(2) 中期的な取組方針

国立駅周辺地域を回遊性のある空間とするために、それぞれの事業を適切に進めていく。
 国立駅周辺道路整備は、関係機関と協議を行い、対象路線の整備を順次進める。
 再築後の旧国立駅舎をまちの活性化の拠点とする。
 ハードソフト両面の事業を行うことにより、国立駅周辺地域を回遊性のあるまちにする。
 「富士見台地域重点まちづくり構想」に基づき「(仮)富士見台地域重点まちづくり計画」を策定し、富士見台地域の今後のまちづくりのために必要な事業を展開していく。
 地域全体で子育てを応援し、多世代の居場所にもなる矢川複合公共施設の施設整備を進め、地域のにぎわい拠点とする。